

# 現地ルポ — 北海道のニトリが進出しためざましい成長力

# インバウンドでも主役 — タイの

# タイのを探る



バンコク駅前の風景▶

近年、アジアにおけるタイの存在感が増している。脱中国の加速という追い風もあり、めざましい経済発展を続けるタイは、まだまだ伸びしろも大きく、「いずれ日本を逆転する」との見方も少なくない。  
前号では、北海道から渡ったキハ183による高額ツアーの盛況ぶりを取り上げたが、インバウンドの面でも特に北海道は絶

大な人気を誇っており、豊かになったタイ人を実感する人も多いだろう。  
8月31日には、ニトリがタイに初進出し話題となった。出店戦略で「失敗しない」ニトリがタイに狙いを定めたのは、旺盛な購買意欲があればこそ。現地ルポ第二弾では、変わりゆくタイの今を紹介したい。  
(フリーライター・内海達志)

## 前途洋々のアジア市場

ニトリのタイ1号店がオープンしたのは、バンコク中心部にある大型商業施設「セントラルワールド」。約600坪の広さで、10時から22時までの営業（無休）となっている。現地に駐在する日本人の知人に感想を聞く。「ニトリの商品を買い求めるのは本当に嬉しいので、

出店こそ初めてだが、タイにはグループ会社が運営する製造工場「サイアムニトリ」を有しており、重要な役割を担う国と位置付けられている。  
同工場では、主にペットボトル由来の原料を用い、環境に優しいカーペット・ラグ製品などを製造。エコの先端をいく斬新なビジネスモデルとして注目を集めた。  
アジア市場での店舗展開に力を入れるニトリは昨年、シンガポールとマレーシアに初進出した。今回のタイに続き、本年度中にベトナム、インドネシア、フィリピンなどへの出店を予定している。  
若いマンパワーの熱量で躍進するアジアは、

株式会社ニトリホールディングス

【ニトリHD】ニトリグループ アジア出店加速：2023年8月にタイへ初出店

株式会社ニトリホールディングス（札幌市北区、代表取締役会長兼CEO 似島和雄）は、アジア地域への出店を加速すべく、タイの第1号店を、2023年8月にバンコクの中心地に所在する、国際的なランドマークである大型ショッピングモール、「CentralWorld(セントラルワールド)」内にオープンいたします。

ニトリグループは、「住まいの豊かさを世界の人々に提供する。」というロマン(志)、2022年3,000億 円、売上高3兆円を達成するというビジョンを掲げています。  
著しい成長が見込まれるアジア地域は、ロマンとビジョンの実現に向けた最重要地域であり、出店の

▲バンコク出店に関するプレスリリース

経済が沈滞する日本にあつて躍進が止まらないニトリにとって、ベストマッチな市場といえるだろう。  
また、福島第一原発からの処理水排出問題を巡り、中国では日本製品の不買運動が広がっているが、タイをはじめ親日国ばかりのアジアは、地政学的なリスクが皆無という点も大きい。

ビジネスでの結び付きのみならず、似鳥国際奨学金財団では、2021年からタイの大学への支援を行っている。  
タイ人は北海道LOVE  
コロナ禍を脱し、インバウンドが本格的に回復したものの、前述した処理水問題の影響で、最大の割合を占める中国人観光客の動きは鈍い。しかし、タイ人は処理水に難癖をつけることもなく、北海道を訪れてくれている。  
2020年8月に北海道経済部観光局が発表した、2019年度の「北海道観光入込客数調査報告書」によれば、国・地域別で、タイはトップの中国(24.3%)、台湾、韓国

に続き、香港をおさえ4位(8.6%)だった。中国との人口比や地理的条件を鑑みれば、3分の1以上というのは大健闘といえるだろう。タイの21万6000人は立派な数字だが、それでも前年度比で10.5%も減少している。これは19年度の第4四半期に、コロナウイルスが蔓延したためだ。  
以降、インバウンドは暗黒期に入り、21年度はついに外国人観光客がゼロに。22年度は



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)